

地域の支え合い・助け合い活動に関する調査にご協力いただき、ありがとうございました。配布件数 300 件中、232 件の回答（77%）がありました。回答は、①民生委員児童委員、②自治会長、③居宅介護支援事業所等相談対応を行う関係機関（支援者）、④ボランティア活動者等一般の方々にご協力いただきました。

※回答しやすいよう、対象者によってアンケート項目を変更しております。また、回答件数は質問項目によっては無回答の場合もあり、必ずしも件数は一致しませんのでご了承ください。

※ (民) : 民生委員児童委員が回答

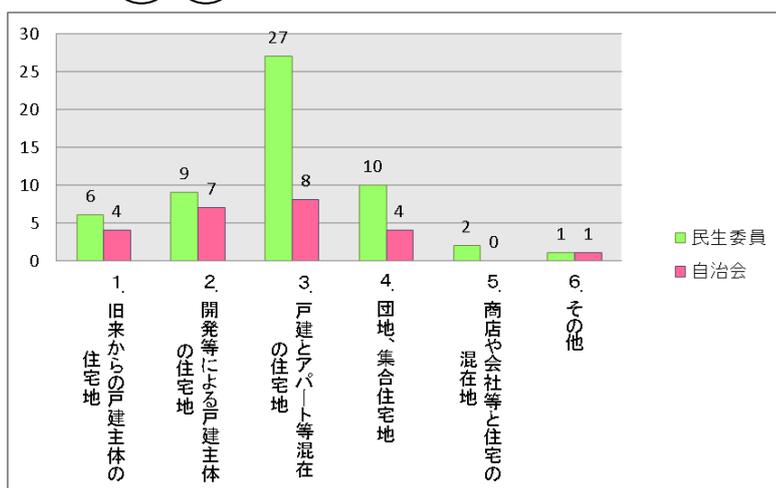
(自) : 自治会長が回答

(支) : 支援者が回答

(一) : 一般の方々が回答

1. 地域の現状

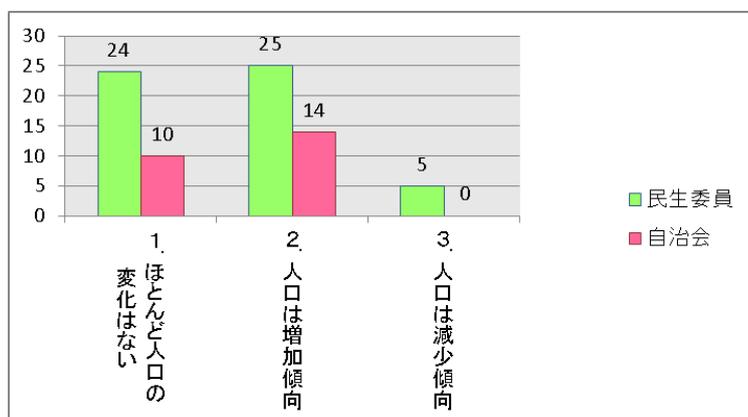
1-1 (民)(自) 地域の特徴を教えてください。



回答者（79名）中、約44%が「3. 戸建とアパート等混在の住宅地」と回答している。開発等による戸建ての住宅地も増えてきている様子である。

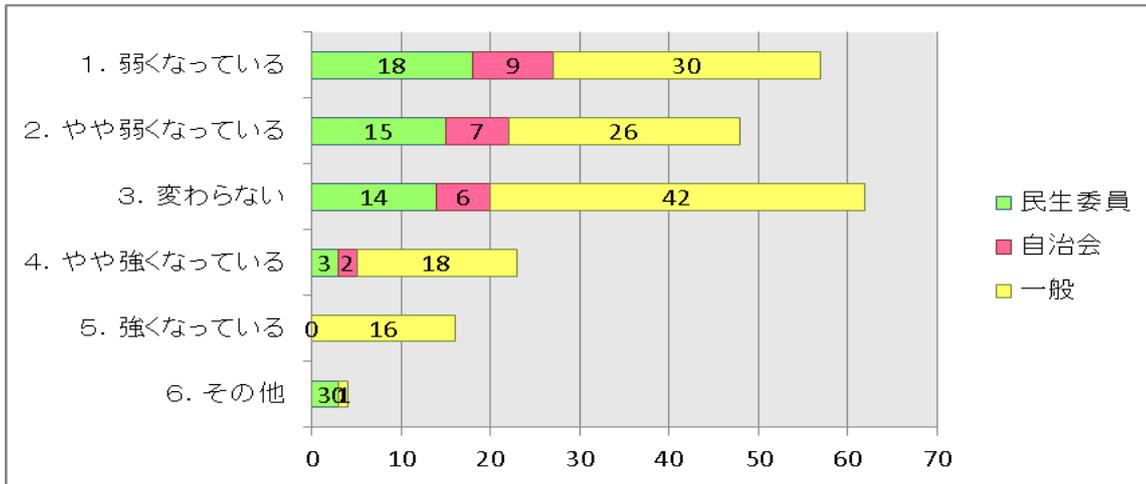
「6. その他」には、「開発による戸建とアパート等混在の住宅地」「旧来からの住宅と戸建住宅」という意見があった。

1-2 (民)(自) 地域の人口増減の状況について教えてください。



回答者（78名）中、半数が「2. 人口は増加傾向にある」と回答している。しかし、自治会より「人口は増えたが自治会に加入しない人がほとんどである。」という意見があった。

1-3 (民)(自)(一) 地域における人と人のつながりは、以前と比べてどのようになっていると感じますか？



回答者（210名）中、約3割が「3. 変わらない」と回答しており最も多かったが、「1. 弱くなっている」と「2. やや弱くなっている」を合わせると半数を占めており、つながりが弱くなっていると感じている人が多い。

つながりが弱くなっていると感じている人の中には、「自治会活動が活発なので、その分はいいが、高齢化と多忙化で参加者に限りがある。」という意見があった。また、「6. その他」には、「現在の地域の状況がつかめていないのでわからない」「アパート等に関してはわからない」「班によって違う」という意見があり、状況把握が難しいことや、同地域であってもつながりの強さは様々であることが窺える。

1-4 (民)(自) 地域における特徴的な福祉課題・状況について教えてください。

【民生委員】※37名回答

①高齢者の増加

- 子ども世代との別居により、親世代の高齢者夫婦世帯、単身高齢者が増加している。
- 高齢者夫婦世帯が多く、子ども達も別居生活の為、定期的に見守りの状態が必要と思われる。（安全の確認と健康状態の把握。）
- 単身高齢者が増加していると思う。（5名）
- 老人世帯が多い傾向にある。（8名）
- 高齢者が増加しつつあり、ひきこもりがちになっているような感じがする。
- ここ数年で7名の老人が死去している状況である。
- 地域が新興住宅のため、二世帯、三世帯が減り老人世帯が多くなっている。
- 子ども達の数が減り、高齢者が増えてきた。子ども会もなくなり、子どもを取りまく活動が消え滅びなくなった。
- 親世代の高齢者世帯（年金受給者）が増加している。
- 団地ができて数十年経過の中、世帯構成も変化し老夫婦が増加している。
- A自治会は単身高齢者、B、C、D自治会は高齢者夫婦が増加しており、課題になっている。

②母子家庭の増加

- ・母子世帯が増加している。（４名）

③アパートの増加

- ・都市計画によりアパートが多く、アパートの住民は自治会への加入がないため、旧自治会員との交流は殆どない。おそらくアパートの住民同士の交流もないのではと思う。という地域事情があって情報の収集が難しい。（２名）
- ・マンション、アパートの世帯が急増中。
- ・アパートが増えて実態把握が十分でない。

③つながりが希薄

- ・隣に住んでいる人がどんな人か知らないで生活している。同じ年の子を持つ親等、似た境遇にあるわけではないので、特に付き合う必要がない等の考えを持っている。外から新しく移り住んだ人に対して冷たい、行事のときも区別されることなどもある。
- ・３０～４０年前は子ども中心に親も情報交換が自然にできていたが、その親も高齢になり、子ども達も独立して地域から自立していった。現在は自治会もなく、隣近所がつながる機会が薄くなった。
- ・開発３０余年経過に伴い子どもの減少、平均年齢６５歳以上と高齢化が進み、シニア世帯の増に伴い老後の生きがい活動に参加する人が少ない。
- ・日常の関わりが弱くなり、年代の差で親はおきざりにされている、という感あり。
- ・地域内の人と人とのつながりが弱体化しているような感じを受ける。
- ・大人と子どものつながりが弱い。
- ・ヨコの世帯間のつながりが弱い。
- ・以前は部落内に婦人会、子ども育成会の組織があったが、現在は解散している。よって地域の交流も少なくなっている。
- ・共稼ぎ世帯が多く、家にいる方が少ないので連携が取れない。

④二世帯住宅の増加

- ・親が高齢になったので子ども世帯がＵターンし、二世帯住宅が増えている。（２名）

⑤その他

- ・開発地なので、高齢者世代の所帯は少ないと思う。
- ・単身高齢者と未婚の子どもとの世帯が目立つ。
- ・特に変りない。
- ・三世代のコミュニケーションづくりがなされている。子ども会も充実。
- ・まずは住民を把握するのが先決。
- ・諸物価値上がりで、病院代の心配が増えている。
- ・老人世帯、特に一人暮らしの方たちが公民館に来やすいようにするにはどうしたらいいか。集会所の建替えやバリアフリー化等も含めて、考える。

【自治会】※２０名回答

①高齢者の増加

- ・子ども世代との別居により、親世代の高齢者夫婦世帯、単身高齢者が増加している。（１３名）

- ・単身高齢者が増加し、見守り等に問題がある。毎週のように葬式があり、高齢者の精神面でのケアが必要では？
- ・世帯の高齢化が進んでいる。

②つながりが希薄

- ・自治会未加入の世帯が増加し、地域とのつながりが薄くなった。
- ・子どもは家庭を持つと、自治会に加入しない人が多い。その為、自治会の会員数は減少傾向にあり、地域の活動自体が弱まりつつある。
- ・高齢者世帯の増加に伴い、健康を害した人が増え、隣近所との交流が以前に比べ、減少している。
- ・自治会行事等においても参加協力者が減少している。

④二世帯住宅の増加

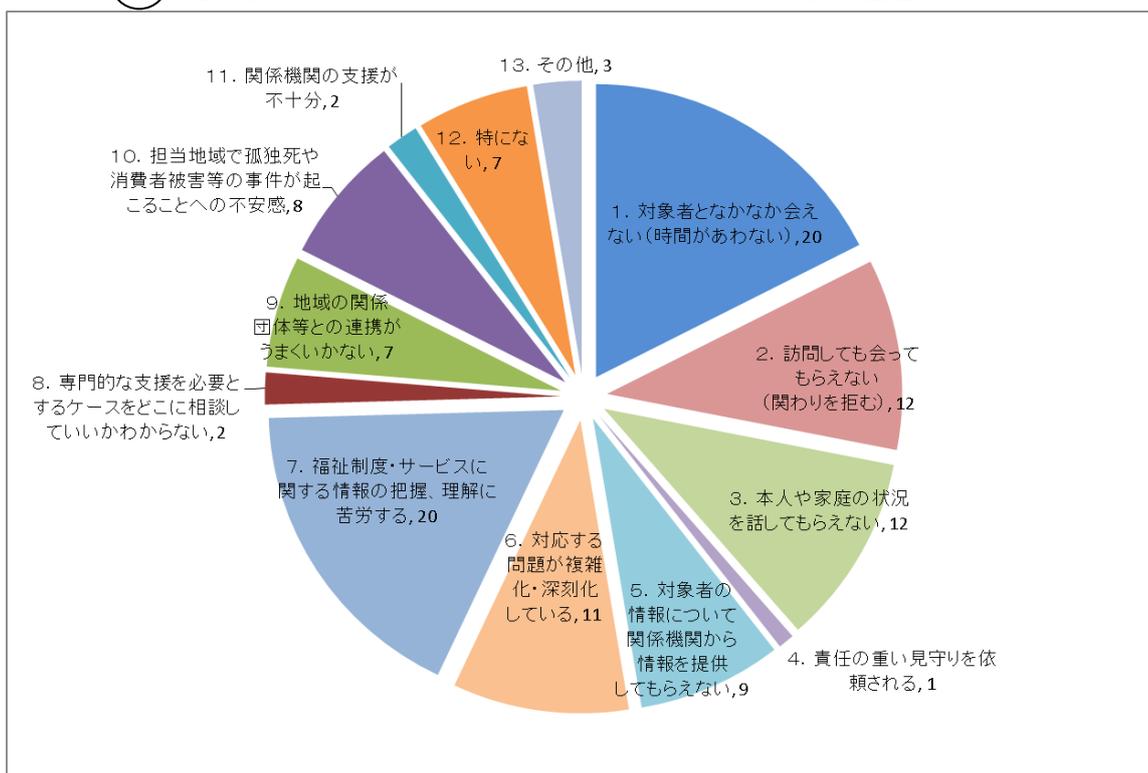
- ・子ども世帯が帰ってきて親と二世帯で住むのが増加中。

⑤その他

- ・高齢者世帯が増加しているとともに、高齢者の転出等で中古住宅として購入して転入する若い世帯も少しずつ見られる。
- ・老人会組織が無く、10名程度で細々と週1回のミニデイ活動しか無い。
- ・ミニデイなどで健康体操やリズム体操等を実施しているが、参加人数が実際の高齢者の数の1/6名程度。
- ・週1回2時間程度、10名程の老人中心でグラウンドゴルフをやっている。
- ・民生委員がフォローしている。

2. 現在の活動状況、相談状況について

2-1 (民) 活動する中で、困っていることは何ですか？（複数回答）



回答者（53名）中、「1. 対象者となかなか会えない（時間があわない）」「7. 福祉制度・サービスに関する情報の把握、理解に苦勞する」という意見がそれぞれ20名で最も多かった。1. に対して、「自ら合わせていきたいと思う。」という意見もあった。

「13. その他」には、

- ・ 独居男性の方で2件あり。元気な方で見守りの状態である。
 - ・ どこに誰が住んでいるのかさえ把握できてない。
 - ・ 各行政機関のきまりがネックになって住民のニーズに合わない場合もある。
- という意見があった。

2-2 (民) 最近気になる相談や増えている相談としてどのようなものがありますか？

※16名回答

①子育て

- ・ 近くに両親など相談できる人がいないため、子育てに悩んでいる。
- ・ 保育所入所。
- ・ 子育て世帯の待機児童の問題。

②人間関係、家族関係

- ・ 隣人とのトラブル。
- ・ 親の生活に頼り、子どもの甘えをなすがまま、という一部のだと思うが、親の苦勞がたえない様子等がある。

③相談がない

- ・ 相談・支援件数が殆どない。（2名）

④ひきこもり

- ・ 入院でミニデイから遠のいた方がそのまま家庭でひき込もってしまう。何度訪問してもなかなか賛同してもらえなくて困っている。

⑤介護・病気

- ・ 老人介護に関する相談が多くなっている。
- ・ 高齢世帯の増加に伴い、健康問題、介護問題が増えている。
- ・ 病気のこと。

⑥生活困窮・経済的問題

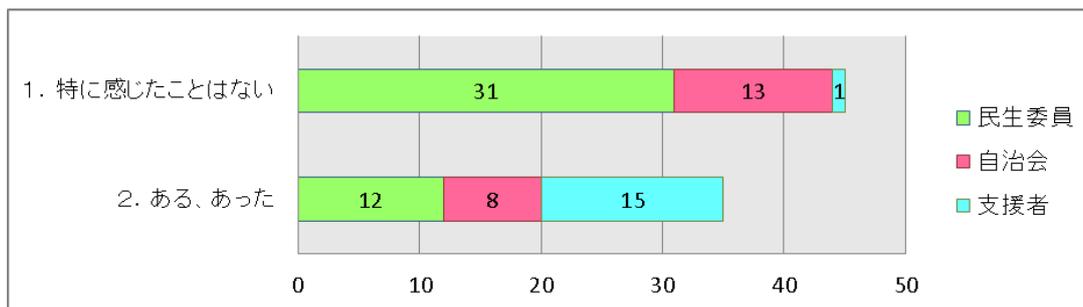
- ・ 生活困窮者が少しずつ増加しつつあり、気になる。年金（国民）のみの生活者があり、生活支援をもう少し充実して欲しい。
- ・ 低収入からくる夫婦間、子育て、生活苦の不安を抱えている家族。
- ・ 通院交通費がかかるので、近所の頼みやすい人に頼んでいるが、忙しさとガソリン代等の都合で断られる。

⑦その他

- ・ 生活支援について要望がある。

- ・地域のつながりがあまりなく、相談されても困って社協につなげて何とかやっている。
- ・話し相手が要るが、誰でもいいという訳にはいかない。
- ・小学5年生の引き逃げ事故で、未だにわかっていない。何度も発生していながら（死亡事故も過去に有）、対策が不十分な感じを受けている。

2-3 (民)(自)(支) 特に対応に困った、困難を感じた事例がありましたか？



回答者（80名）中、対応に困った事例が「2. ある、あった」と答えた方が35名（約45%）いた。なかでも支援者の中で対応困難な事例が多く挙がった。

<事例>

【民生委員】

- ・独居男性のところは訪問しにくい。
- ・年金生活をしているのに、国保やその他の税金が高い。
- ・精神的な病で悩んでいる方への対応。
- ・長男家族と同居しているが、嫁が家事を手伝わないので離婚させたい、という相談があった。話を聞いて、民生委員活動を説明して理解してもらった。
- ・生活力のない子ども（50代位）の面倒は国がみないの…という内容等。
- ・認知症と思われる老人の相談が多くなっている。
- ・現在生活保護者であるが、一人のためその人の対応に困っている。
- ・家族の相談を受けた際、子ども達とのつながりがなくて困っている。
- ・夫が働かないので家計が成り立たず、離婚も考えている。
- ・身体的障がいがあり、一人暮らしでも訪問にに応じてくれない。
- ・話し相手が要るが、誰でもいいという訳にはいかない。
- ・ミニデイの一人暮らしの方がなかなか出てきてもらえない。
- ・監護別居の申請の件で、果たして事実かどうかの確認が不十分。

【自治会】

- ・ごみ屋敷の世帯があるが、地域との関わりを断っているため対応できない。（市とは相談している。）
- ・自治会から脱退者に説得（残るよう）困難な面が1件あった。

- ・独居高齢者のごみの分別について対応できない。集合住宅では分別ができていないごみ等は業者の方がそのまま持って行ってくれないので、地域の清掃活動の協力が必要である。
- ・戸建住宅で転入して来た方々の中には、周囲と関わりたくないと思っている様に感じられる方がいる。
- ・大声でわめいているとの苦情があった。
- ・買物の途中で歩けなくなったりした人をどこまで対応するか？（道ばたで、歩けなくなり、すわり込んでいる。）
- ・隣近所の付合いを避けている人がいる。

【支援者】

①介入拒否

- ・高齢者世帯と障がい者（子）の世帯で支援が必要だが、両親は認知の進行もあり外部との関わりを拒否する為、必要な支援が行えなかった。
- ・60代男性、独居、生活保護世帯。糖尿病関連持病にて入退院を繰り返す。通所リハ、その他訪問系サービスを利用するも拒否多い。失禁多く、自宅内不衛生。
- ・本人、あるいは家族に精神障がいがあり、自宅訪問を拒む。また、必要性のあるサービスの導入も拒否する。
- ・性格柄、必要とされる支援で改善しようと思っても拒否が強く、支援できない状況がある。（長期間入浴しない、服薬管理等工夫するも病識なく体調変化が多い。）
- ・次男に関して知的レベルが低いことから精神鑑定を進めたが、うまくいかなかった。（受診につながらなかった。）
- ・独居。KP（甥）は本土におり、本人が土地・家屋の売却の契約をしていたが、本人の記憶がなく、契約書、不動産とトラブルが発生した。KPから「食事もとれていない。精神的におかしい。支援して下さい。」等の電話があり、関係機関が介入。本人にサービスを促すが、「自分の事はできている。サービスの必要はない。」と拒否。その後、再度KPより「サービスの利用もないし、本人の状態は悪くなっている。支援して下さい。」との電話あり。また、不動産の職員より訪問した際、食事もとれていない様子でふらふらして「死にたい」ともらすとの情報を得たため、再度KPと相談し、食事の確保のためデイサービスにつなげる。その頃には火の始末や金銭管理・認知症の進行もあり在宅生活は困難な状態であったため、KPが来沖し、一旦は施設に入所し土地・家屋を売却し、4ヶ月後に本土に帰還した。

②自宅が不衛生

- ・70代生活保護世帯、単身女性。ヘルパー、デイ、週1回の息子の訪問で対応するも、衣類を汚す、失禁、ゴミを溜める等サービスで追いつかない。後日、施設入所について話し合う予定。服薬管理もできていない。
- ・数年前包括からの依頼で訪問。室内はゴミとお酒のビンが散乱し、事業所職員数名と包括職員、民生委員で片付けしサービスにつなげたことがある。
- ・認知症の方で日中は独居となり、自宅内が不衛生となっている。

- ・90代の男性利用者が病院より紹介あり、支援センターと共に入ったが、長い間妻の介護と入院でゴミ屋敷、ごきぶりの倉庫とっていい程の家の方であった。自宅内の掃除で関係機関との協力ができず、娘、ケアマネだけで負担が大きかった事例が過去にあった。
- ・息子と母親の世帯…息子が母親の介護に関わっていたが、息子が発病し、入院。自宅内はゴミ屋敷化、ペットボトルの廃尿（何百本）も屋敷内に放置されていた状態。居宅事業所、民生委員の協力と遠くの親戚に連絡し協力しながら、日数はかかったが清潔な環境に近い状態となった。

③DV、家族関係の不良

- ・同居家族内でDVの可能性がある。
- ・息子と2人暮らしだが、息子は仕事で忙しく、本人と折り合いも悪かった為、介護に関わらず。長女がいろいろ関わっていたが、その長女が脳梗塞を発生し入院、退院後連絡がつかなくなってしまった。息子へも手紙など書きおきするが、返答をもらえないままであった。
- ・家族はいるが、本人との折り合いが悪く、緊急時等の協力が得られない。
- ・利用者の家族の連絡体制に困難を感じた。利用者の身体状況の件で電話すると、「たったこれくらいで電話するな」と切られた事あり。

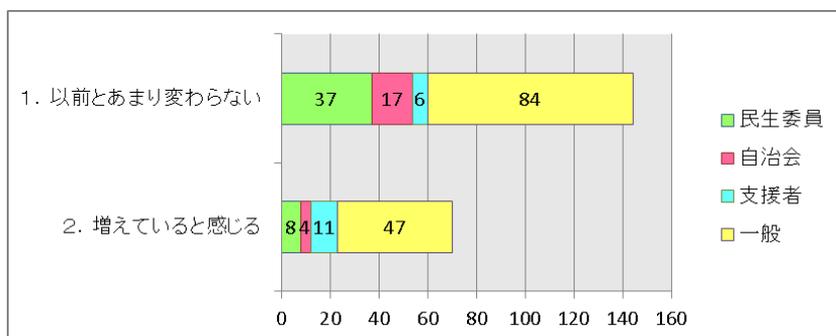
④アルコール関連

- ・飲酒を禁止しているが、友人等が持参もしくは金をその人から取って購入してきて飲酒し、意識不明や、転倒などの事故になってしまった。
- ・独居、生活保護、アルコール依存の利用者の所に、誰かがお酒を届けている。その為、必要と思われる支援が出来ない。

⑤その他

- ・認知症状による徘徊の方。
- ・軽度の知的障がいをもっている高齢者で、一人暮らしをしている。近くに住む親戚が面倒をみているが、介護者がいつまで面倒をみることができるか等、今後の事を考えると不安がある。
- ・コミュニケーションの悪さからサービスにつながりにくい。

2-4 (民)(自)(支)(一) 生活困窮（経済的な困難）の世帯の状況・相談の状況について教えてください。



回答者（214名）中、「1. 以前とあまり変わらない」との回答が半数を超えていたが、「2. 増えている」と感じている方が約3割いた。特に支援者・一般の方でそのように感じている方が多いという結果が出た。また、「1. 以前とあまり変わらない」を選択した方の中には、「見えてこない」「教えてもらえないからわからない」「報告がない」という意見があった。

<増えていると感じる方の意見>

【民生委員】

- 相談はないが、物価が上がっているので生活しにくくなっていると感じる。
- 離婚後の母子世帯の子の扶養に関する経済的な困窮が最近気になる。
- 高齢者の親に頼りきるその子の年代が深刻さを増す。
- 年金が少なすぎて病気になったらどうしようとの不安感。

【自治会】

- 医療費などの負担がかさみ、生活困窮を訴える情報がある。
- 住居の共益費等の滞納など特に年金生活や生活保護世帯等からの生活がきびしいという声が多い。
- 高齢に伴う医療、介護費の負担増加と思われる。

【支援者】

①施設入所費用の支払が困難

- 両親が認知症にて施設（有料老人ホーム、老健、特養等）を利用したいが、支払がきびしい。
- 生活保護の方の保護費が引き下げられて、有料老人ホームの家賃が払えなくなる。
- 老人ホームに入所している利用料金を工面するのに負担を感じている配偶者がいる。

②在宅サービスの利用が困難

- お金がないからデイサービスには行けないと言われた。
- 在宅で限られたサービスを受けるには問題ないが、施設には入れない方や要支援での料金支払いは問題（ギリギリ）なくても、介護となると支払いが難しく、サービス利用が減ってしまう方もいる。
- 日中一人になり排泄等介護を要する状況であるが、経済的な面で、介護サービスの導入が十分でない。
- 在宅で介護するのに負担が大きく、家族の精神面にも影響しているがショートステイ等を利用するゆとりがない。
- 自宅での入浴が出来ず、デイサービスで入浴を行っているが、経済的な面で週1回しか利用できない。

③収入が年金のみ、無年金

- 高齢者夫婦世帯や独居生活の方で、年金のみで生活し、金銭的に厳しいという方が増えているように思う。又、その方々の子どもたちも、自分の生活を支えるだけ精一杯で、親の金銭的支援が難しい状況がみられる。
- 高齢者の無年金。

④仕事ができない、仕事に就けない

- 親の介護により仕事業務が減少され生活できる経済力が低下している。
- 親の介護をする為に働きに出られず、経済面が苦しくなっている。
- 職に就けず安定収入が得られず、高齢者の年金に頼って生活している。
- 利用者を支えている家族が高齢になり、仕事がなく収入がない為適切なサービスが受けられない。
- 母親の介護者（50代後半）がアルコール中毒で就労していないため、経済的負担が大きい。虐待もあり、包括と情報交換し、訪問等を行っている。（母親の通所利用料の未納あり。）

⑤その他

- ・生活保護を受けている人が増えた。
- ・高齢者の両親（89歳）と障がいて要介護の息子の世帯、高齢の父母は共に心疾患あるも、父親は畑仕事もあり母親にも畑を強要。母親も入退院を繰り返しているが息子の介護負担も大きい。息子や妻に対する父親の言葉の暴力もあり、包括と情報交換し経過を見ている。（経済的負担もあり、特別障害者手当の申請をすすめている。）

【一般】

①年金が少ない、無年金

- ・電気、ガス、水道と最低限の生活をするにもお金がかかるが、年金等の額が少額であると思う。
- ・年金収入がないため。
- ・年金生活なので少々きびしい。
- ・年金生活者が増えている中、年金額減少、社会保障、消費税等が問題、原因と思われる。
- ・年金が下がり、人付き合いが多くなり。
- ・年金は下がって、物価は上がった分、困っている。
- ・年金だけの生活だから。

②増税

- ・年金や下げられた税金が高くなっている。（年金から差し引いて税金は払われる。）やりくりすれば生活できるが、子育ての親、生活保護世帯、ホームレス、フリーター、皆さんがどのように暮らしているのか心配。
- ・増税の為、買い物比以前に比べて少なくなっている。経済的に苦しく思っている。

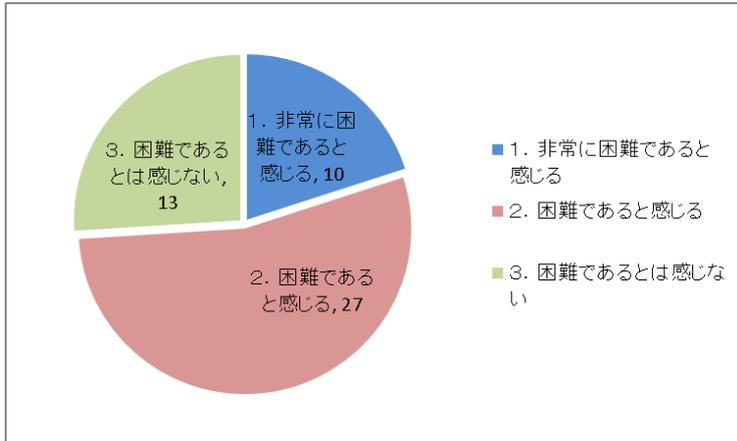
③よくわからない

- ・プライバシーの問題があるのでよく分からない。
- ・新聞、TV等で報道されていることから鑑みて、経済的に困っている人は増えていると思うが、現実的に身のまわりや地域でどの様になっているかは不明。

④その他

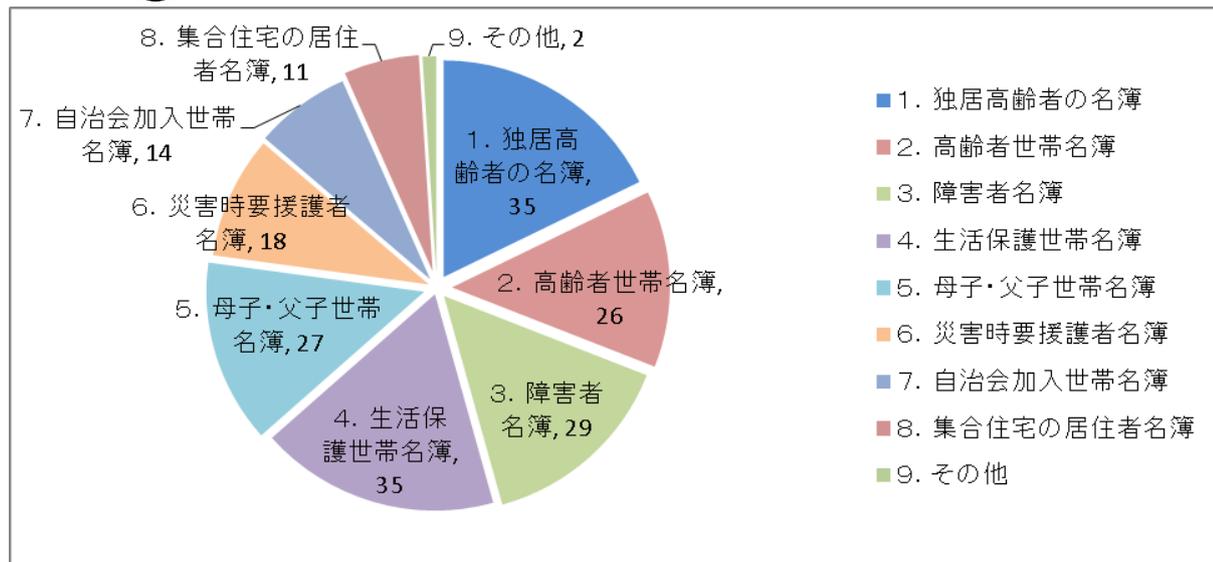
- ・パートで就業先が変わっているのがみられる。
- ・子ども達からの支援が少なくなっている、又は全くない。老人家庭が増えていると感じる。
- ・一部の裕福（富裕）をのぞき、社会全体がゆとりを失っていると思う。満足な仕事がない、パート・派遣・失業、若者に夢が見られない現実である。沖縄は全国最下位の所得や失業率の中に於いては未だ、優しさが残っているのだと思う。個人情報に必要以上にしぼられ、地域の困窮した方や母や子どもに目が届かない。誰かが悲鳴をあげていないかと思う時、せつない思いで「チム、ワサワサー」する。

2-5 ① 民生委員・児童委員活動を行うにあたって必要となる対象者の個人情報の入手についてどのように感じていますか？



回答者（50名）中、「1. 非常に困難であると感じる」「2. 困難であると感じる」との意見が7割を超えていた。

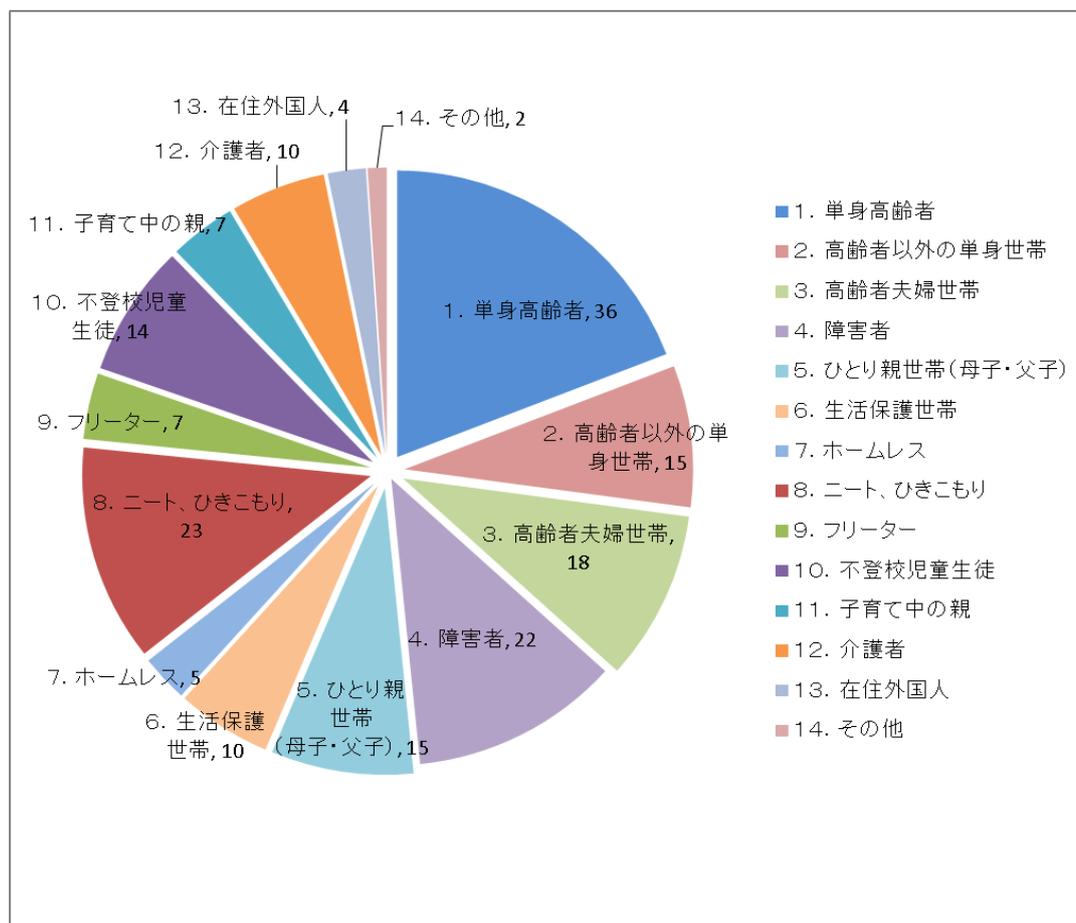
2-6 ① 活動を行うにあたってどのような情報が必要だと感じますか？（複数回答）



回答者（51名）中、「1. 独居高齢者の名簿」と「4. 生活保護世帯」の名簿が必要と感じている方がそれぞれ35名おり、最も多かった。「9. その他」に、「ニート、ひきこもりの名簿」を希望する意見や、「自治会未加入世帯は近所づき合いがないので、1～6の名簿が必要ではないか」との意見もあった。

3. 社会的孤立の実態とその防止・解消に向けた取り組みについて

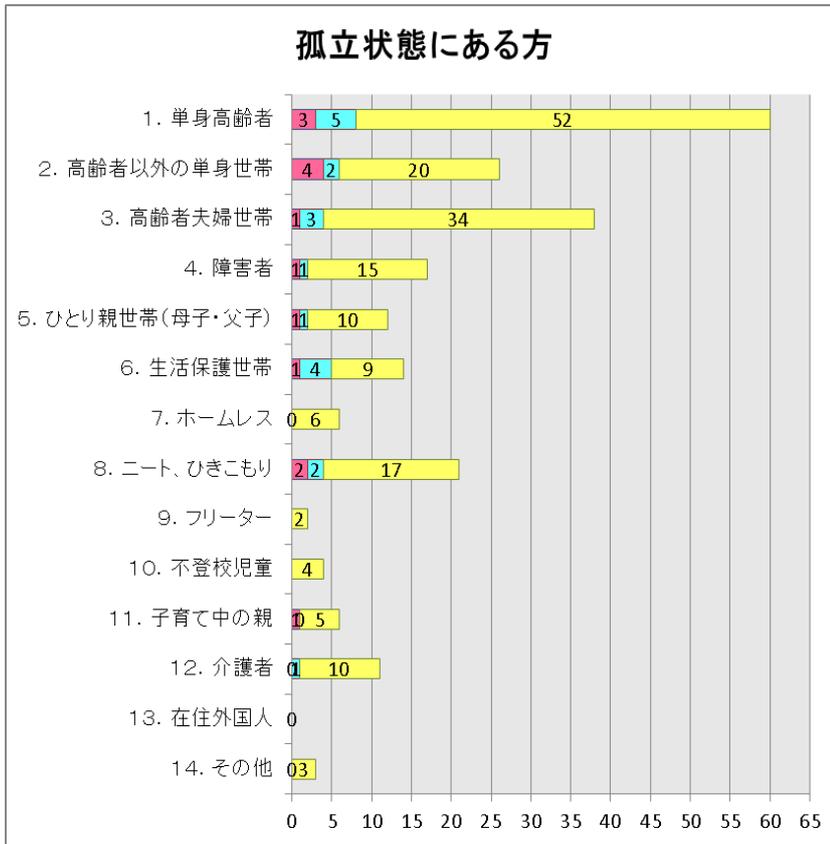
3-1 (1) (民) 担当地域で、どのような方が孤立状態にある又は孤立する危険性があると想定されますか？（複数回答）



回答者（55名）中、孤立状態にある、又は孤立の可能性のある方として、「1. 単身高齢者」が36名、「8. ニート、ひきこもり」が23名、「4. 障害者」が22名がという結果であった。この結果から、高齢者だけでなく、その他の世帯に関しても孤立している又は孤立の可能性を危惧している様子が窺える。

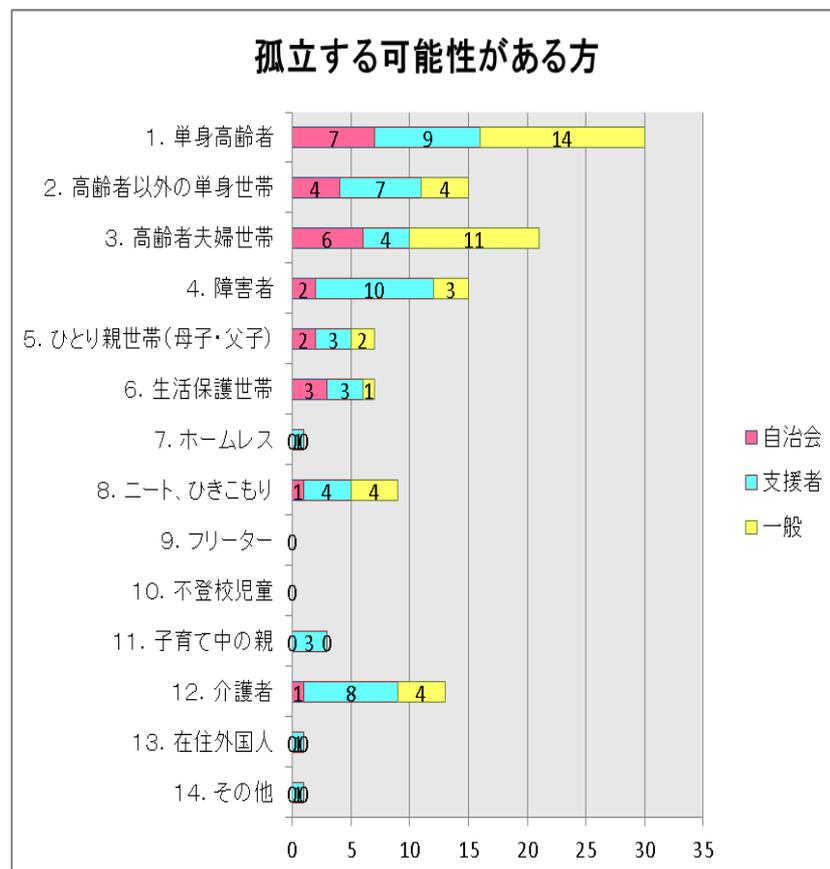
「14. その他」には、「個人情報をごとまで公表できるか。それが出来れば全部必要。」「自治会未加入世帯」という意見や、ひとり親世帯の中でも「父子家庭」を選ぶ意見があった。

3-1 (2) ①②③ 地域・利用者の中で、孤立状態にある又は孤立する可能性があると思われる方がいますか？（複数回答）

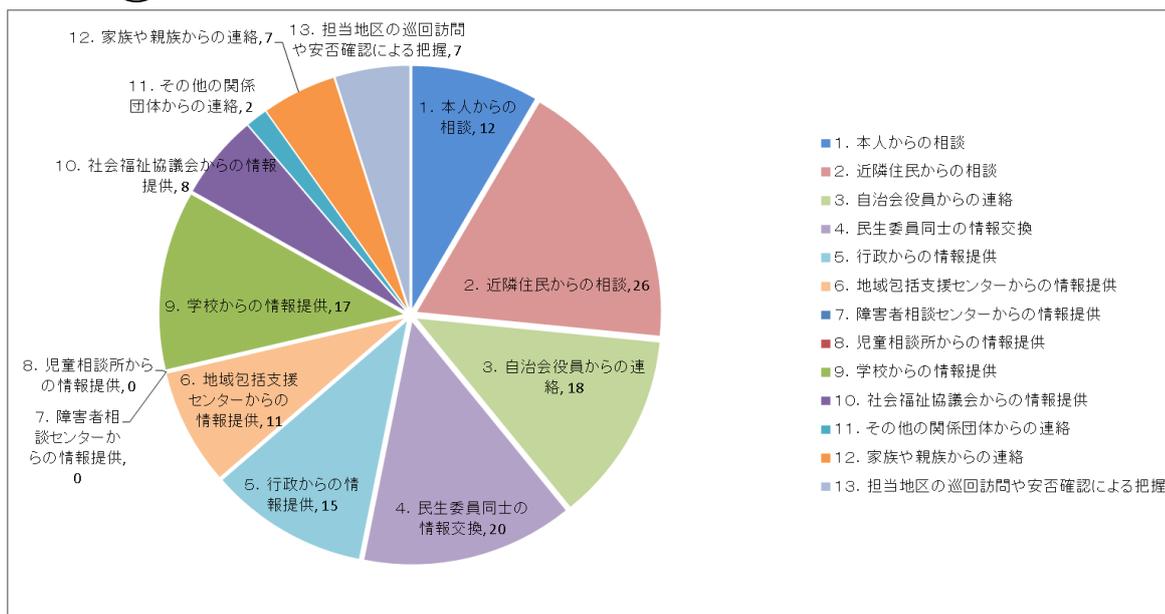


回答者(176名)中、孤立状態にある方、孤立する可能性がある方として「1. 単身高齢者世帯」を選んだ方が多かった。次に「3. 高齢者夫婦世帯」が多く、高齢者が孤立状態にある、又は孤立する可能性が高いと考えている人が多いことが分かった。また、一般の意見では上記項目について「孤立状態にある」を選択している方が多く、自治会や支援者より孤立状態にある高齢者がいることについて、より実感している様子である。

孤立状態にあるという「14. その他」の意見として、「グループホーム入居者」という意見が2件あった。また、孤立する可能性がある方の「14. その他」の意見として、「高齢者と未婚の子」という意見が2件あった。

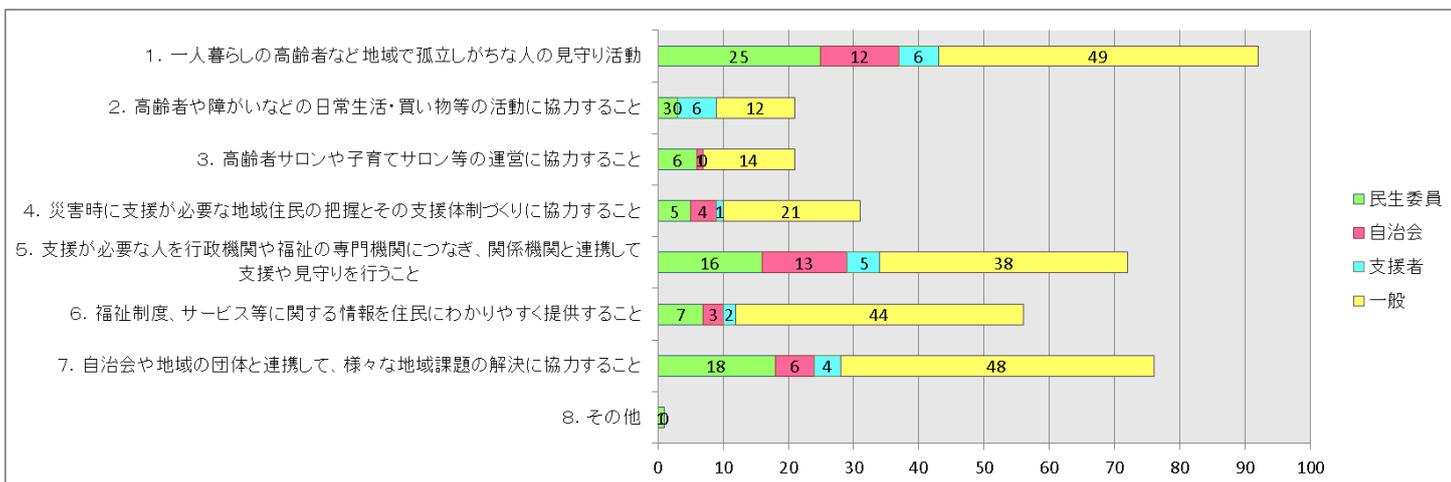


3-2 (民) 地域で孤立状態にある方をどのように把握していますか？（複数回答）



回答者（50名）中、「2. 近隣住民からの相談」が26名と最も多かった。次に「4. 民生委員同士の情報交換」が20名、「3. 自治会役員からの連絡」が18名と、地域の住民や民生委員・自治会との連携で情報を得ていることが分かった。また、学校からの情報提供も多いことが分かった。

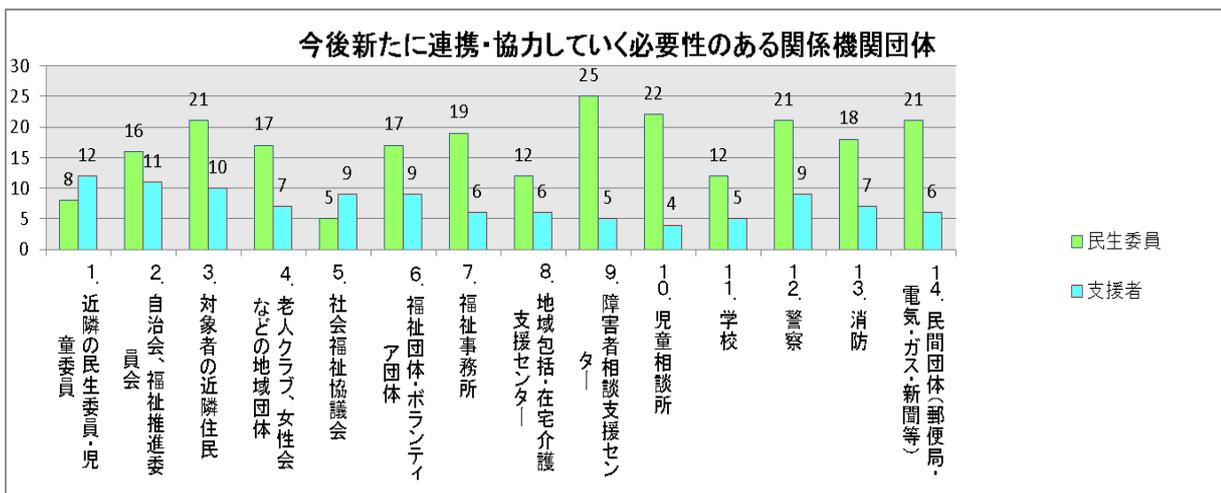
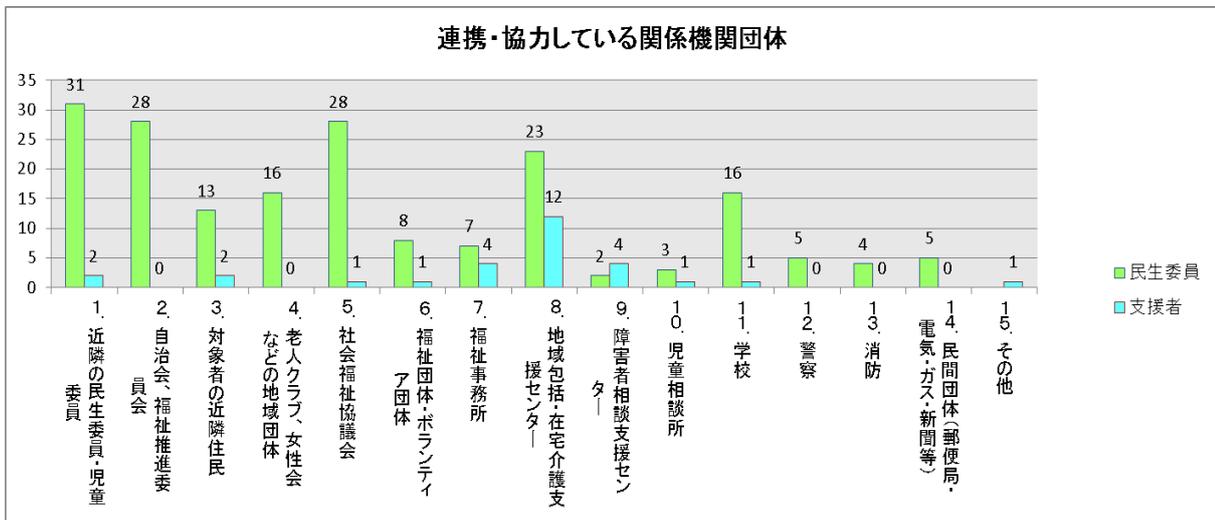
3-3 (民)(自)(支)(一) 今後、社会的孤立の防止・解消に向けて、もっとも力を入れていくべきだと思う活動はどれですか？（特にあてはまるもの2つに○）



回答者（211名）中、「1. 一人暮らしの高齢者など地域で孤立しがちな人の見守り活動」を選択した方が92名と最も多く、次に「7. 自治会や地域の団体と連携して、様々な地域課題の解決に協力すること」が76名、「5. 支援が必要な人を行政機関や福祉の専門機関につなぎ、関係機関と連携して支援や見守りを行うこと」を選択した方が72名と多かった。

「8. その他」の意見として、民生委員より「福祉制度、サービス等に関する情報を住民にわかりやすく提供することは、行政機関がやった方がいい。きまりまで説明できるから。」という意見があった。

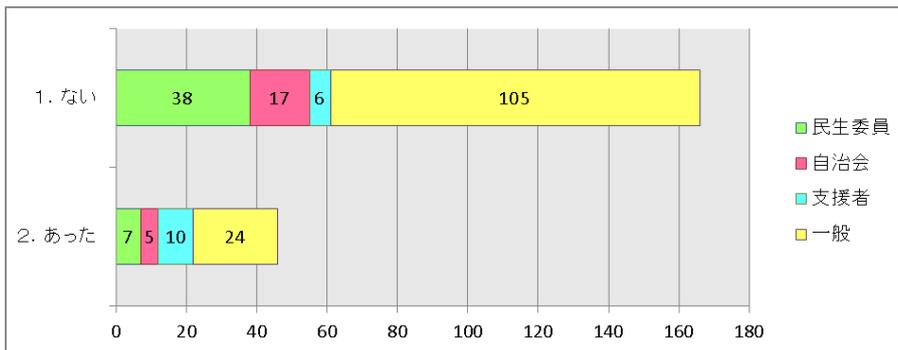
3-4 (民)(支) 地域における支え合い・助け合い活動を行う上で連携・協力している関係機関団体、今後新たに連携・協力していく必要性のある関係機関団体について教えてください。(複数回答)



民生委員(回答者55名)が連携・協力している関係機関団体は「1. 近隣の民生委員・児童委員」(31名)、「2. 自治会、福祉推進委員会」「5. 社会福祉協議会」(共に28名)、「8. 地域包括・在宅介護支援センター」(23名)の順に多かった。一方、支援者(回答者18名)は、「8. 地域包括・在宅介護支援センター」(12名)が最も多く、その他は少数であった。「15. その他」の意見に「(利用者と同じ)宗教団体」というものもあった。

今後新たに連携・協力していく必要性のある関係機関団体については、両者どの機関とも連携・協力する必要があると感じており、現在あまり連携がない団体とどのように関係を築いていくかが課題と考えられる。特に民間団体との連携の必要性を感じている方が多く、電気やガス等具体的に回答されている方もいた。

3-5 (民)(自)(支)(一) 実際に孤独死の発生や情報がありましたか？



回答者(212名)中、「1. ない」と回答した方が166名と多かったが、「2. あった」と回答した方が約2割(46名)いた。

<事例の状況>

【民生委員】

- ・役所、警察、社協、公社、自治会長で話し合いを持ったが、親戚の方が拒否。それで見守りが出来なかった。(2件)
- ・民生委員になる前に、公民館のミニデイへ毎週参加していたが欠席。2～3日後に訪問してわかった。
- ・1年以内に独居老人の死亡が2名あった。
- ・子ども達は別の地域で生活しているので、普段は元気で生活していた一人暮らしの方が、ある日電話しても通じなくなり、訪ねてみると倒れていたとのこと。夏の暑い時期であった。
- ・90歳以上の高齢者、アパートで一人暮らし(一人暮らしが希望の方)。姪が週1度来訪し買物等や身の回りの事を手伝っていた。部屋で倒れられ、翌日頃に姪に発見されたとのこと。
- ・一人暮らしの高齢者、施設の職員の見廻り活動により発見。近所の者は姿が見えないのは遠くへ散歩に行っていると思ってしまっていた。

【自治会】

- ・ここ数年の間に2件ぐらいあった。(50～60代の男性。)50代の男性は直近まで仕事をしていた。
- ・平成26年9月頃、市の担当課との連絡がなくなったので、担当者が自宅を訪ねた。応答がなかったので、警察に連絡し発見された。この方は自治会員ではなく、自治会が把握できなかった。
- ・何年か前に1件あり。

【支援者】

- ・通所サービス職員が自宅へ迎えに行った際、自宅で倒れているのを発見した。死後数日が経っていた。高齢者独居世帯。
- ・豊見城市以外の独居老人、朝ヘルパーが入った時に亡くなられているのを発見した。
- ・高齢者世帯で、台風の日に3日間家に閉じこめられ、最終的に心不全で亡くなっていた。
- ・生活保護受給者で60代と若いのが、お酒をのみ、翌日ヘルパーが訪問すると心不全で変死されていた。
- ・(那覇市) 建築業の方でアパートを訪問したところ、住人が出てこないの、玄関の新聞受けより声かけをしたら、あお向け状態の死体があったとのこと。(かなりやせ細っていたようで、近所からは貧困でご飯も食べてなかったのではないかと言われていたとのこと。)

- ・50代の独居生活者の持病が悪化し、自宅で死後3～4日後に隣人が発見。
- ・要介護状態の母親と、知的障がいの長男、日雇労働の次男の三人暮らしで、次男に入院治療が必要となり、期間中、母親・長男は施設入所していた。次男の軽快退院後、回復を待って施設退所（在宅復帰）を検討していたが、次男の様子を伺うと自宅で死亡していた。
- ・朝デイサービスのお迎えで本人の携帯に電話してもとらず。（独居の方で）家族に電話して様子を見るよう依頼、昼前に家族が様子を見に行った時には死亡で発見された。
- ・地域の方から夜電気がついていない、郵便ポストに郵便物が入っている等があったので周囲の方が不審に思い、親戚を呼んで家の中に入ったら死亡していた。
- ・不動産業者より、独居高齢者で、と聞いたが詳細は不明。
- ・親戚の方が訪問して発見された方がいた。

【一般】

- ・独居より2件。
- ・孤独死があったということを知ったことがある。
- ・単身世帯で、地域との関わりがなく、誰も気付かなかった。（知っている限り、2件）
- ・数年前、自治会に大きなショック／そういうこともあって自治会員同士の自主的な公民館利用や寄り合いが増えた。
- ・40代の働きざかりの人で、死後2～3日後に親戚の人が発見し、警察の検死が行われた。（年末）
- ・1件（独居）
- ・同じ字内で。高齢者。妻に先立たれ、男性の一人暮らし。孤独死で発見された。数年（3年位）以内のこと。
- ・早朝に倒れて、亡くなっていた。

3-6 (民)(自)(支)(一) 地域の支え合い・助け合い活動を充実させるためには、どのようなことが必要だと思いますか？

【民生委員】※27名回答

①連携、コミュニケーション

- ・地域住民同士の密度を高めること。
- ・自治会、行政、各種団体との連携が必要だと思う。（4名）
- ・男性の民生委員もいればいいと思う。（困難な所は一緒に行ってもらいたい。）
- ・自治会と連携して活動をすすめたいが、なかなかうまくいっていない。
- ・コミュニティの親会である自治会を筆頭に、子ども会、婦人会、青年会、老人会の組織を充実させ各世代間の連携を図り、活動を活発させることが重要である。近年組織の弱体化が見受けられ、横のつながりが弱いと思う。

②参加、交流

- ・地域における会合やまつり、清掃活動に常に参加する。
- ・ミニデイへの参加と共に、孤立している方へのミニデイ参加への呼びかけ。

- ・特に若い世帯は地域活動に無関心で地域の行事や活動に参加しないので、もう少し協力的に参加できる様な方法を考えて欲しい。
- ・地域の行事に顔を出し、交流が大事だと思う。
- ・地域の活動やミニデイなど、参加の呼びかけをしてもなかなか出てもらえないので、（顔のみえる活動で元気であることの証しが欲しいのだが）いつか出てくれることを待っている。（それぞれに理由は聞いているが。）
- ・小さな問題や日頃のストレス等も大きな問題になる前に解消していくことが、友人や地域との交流の中で行われると思う。

③声かけ、あいさつ

- ・子どもや親へのあいさつ運動にも力を入れていく。
- ・普段から道で出会ったらあいさつをきちんと交わし、お互い顔を見知っておくこと、声をかけあえる関係づくり。
- ・近隣の方に声かけを多くし、秘密情報は守りながら少しずつ歩み寄っていきたいと思っている。
- ・近隣の住人の声のかけあいが必要だと思う。
- ・隣近所の緊密化・声かけ運動等。（2名）

④つなげる

- ・さまざまな情報を持っておき、きちんと関係機関につなげることでできるスキルを身につけておくこと。
- ・地域活動（自治会活動）を通して、お互いの交流の中から問題点があれば、各種団体や行政につなげることが必要だと思う。

⑤自治会などの活動の充実・強化

- ・自治会の加入率を高めること。
- ・福祉推進委員会の強化。
- ・民生委員・児童委員の充足強化と福祉委員の設立。
- ・現在ミニデイを通して高齢者の状況等はつかめるが言葉のやりとりは少なく、肉親との連携もつかめていないところをもっと深めていくには、と考えている。それには活動内容を1つ増していく。
- ・地域での日頃の活動の充実と継続。
- ・老人クラブ活動の一つとして。
- ・自治会活動の一つとして。（現在殆ど活動しておりません。）
- ・自治会への加入促進。
- ・自治会を中心として、全体の把握をする。地域の福祉推進委員会を活性化させる様にする。常に情報の収集を行い、役所等と連携をとっていく。役所は規定に定めず活動に移す。
- ・サロン活動や児童館の利用を行うことで地域活動が充実すると思う。（校区によって児童館がない点も問題。）

⑥個人情報

- ・個人情報の「緩和」。（情報は守るものとして当然ではあるが。）
- ・自治会からの情報提供があればいいかと思う。自治会未納者、困窮世帯等独居老人世帯の情報があれば大変助かると思う。

- ・個人情報で援助が必要な住民の情報と行政のバックアップ。

⑦その他

- ・核家族になって話がもてないので。
- ・専任の有償ボランティアが必要である。
- ・広報活動の徹底。民生委員が何をしているか知らない人が多い。
- ・地域の自治会活動の参加者を増やす努力をさらに強めること。そのために自治会会費だけではやっていけないので、あらゆる方法を考えて行政は補助を行うべき。（例：防火灯を「LED」に変えるだけで、自治会負担電気料が大幅に減る。他にも多々ある。）

【自治会】※14名回答

①連携、コミュニケーション

- ・子ども達から高齢者まで、健常者から様々な障がい者までもが、全ての人たちが安全で安心して暮らせる地域づくり、人と人が温かくつながり合う連携づくり、サポート体制づくりが必要だと思う。
- ・自治会活動との連携。
- ・民生委員との連携強化。（情報の共有化等）

②参加、交流

- ・積極的に自治会行事等に参加して、実情を知ってもらうことから始まり、何が必要かわかれば支えることがたやすくなる。
- ・公民館などを活用して卓球や簡単な娯楽を通して、交流を図る。まずは、地域の人と人との交流から、いろいろな活動が広がると思う。
- ・地域の行事に参加し、交流の場を通して色々な人を知ることによって助け合う、支え合える様になると思う。ミニデイを積極的に利用してほしいと思う。

③声かけ、あいさつ

- ・日常のふれあいを大切にしたい。
- ・常日頃から隣近所へのあいさつ（お付き合い）、各種福祉活動と地域との連携の構築をしておく必要があると思う。そして、各地域の民生委員と自治会長がともに情報を共有しておくこと。

④つなげる

- ・福祉推進委員会を自治会として積極的に推進中だが、それに参加することを躊躇したり無関心の会員が多く、地域の支え合い等の充実に支障をきたしている。それを克服するコーディネートの工夫の研修が求められると思う。

⑤自治会などの活動の充実・強化

- ・自治会入会者を増やす。
- ・多くの人々が自治会活動に参加するように環境をつくること。
- ・民生委員活動の見直し。（例：有給化）
- ・福祉の専門機関の支援の強化。
- ・自治活動を活発にして、地域のふれあいの機会を増やす。
- ・各種団体への加入推進をし、世代間交流で顔の見える関係づくりを進めていく。

- ・共働きの多い中、自分の家族だけで精一杯で、隣の人のことや、自治会活動になかなか目を向けてくれない傾向が見受けられる。支え合い、助け合い活動の強化をしたいと思う。

⑥個人情報

- ・個人情報とプライバシーとの問題で、対象者の支援が難しい側面がある。

【支援者】※12名回答

①連携、コミュニケーション

- ・民生委員や自治会などの見守り体制を強化し、介護支援専門員や対象者に関わる事業者との連携を強める。
- ・情報を提供し地域包括支援センターに相談していきたい。
- ・社協は民生委員、老人会、ボランティア団体など、地域とのネットワークを持っていると思うので、行政や包括と連携し、地域内の身近な活動の場をつくっていければと思う。見守りや声かけで困りごとを見つけ、支援につなげていけるのではないかな。

②参加、交流

- ・誰でも気軽に参加出来て、自然に交流が出来るようなイベントなどの定期的な開催。

③声かけ、あいさつ

- ・近隣、商店や配達員、配食スタッフ等、ちょっとした安否確認体制充実、毎日の声かけ。
- ・隣人のことをよく知る。

④行政などの支援対策

- ・独居、家族や親戚等のいない方への支援に何が必要か、行政を含めての支援対策。認知症による徘徊の方への支援をどのようにすれば危険のリスクへの回避ができるか、地域を巻きこんでの対策が必要だと思う。
- ・活動が軌道にのっても、行政や社協との継続した関わりが必要だと思う。
- ・支え合いや活動をサポートする拠点を各地域に設置して、そういう活動をしていることを地域にアピールする。
- ・市町村でのコミュニティ活動作り、啓蒙活動の強化。
- ・認知症の方の支援を強化。（地域で把握しながら見守りし、未然に事故防止につなげる体制づくり。）
- ・他県や他地域など先進事例の取り組みを学び、行政が主導して実践していく必要がある。

⑤情報管理

- ・現状の把握をするため、それらの情報を集約する機関が必要。
- ・抜け目のないように情報収集をする。

⑥その他

- ・一部の人に役割が集中しないように配慮する。
- ・地域住民に向けてアンケート（困っていることや要望等）記入依頼で各家庭に郵送し、返信をもらうなどしてニーズを整理するなど。（支援が必要な人の発見につながるかもしれない。）
- ・買い物が行きやすくなるように地域でバスを運用し、外出支援サービス等。（市内のスーパーやバス停（市外行き）前、公民館前、必要に応じて自宅前に停まるなど。）

【一般】※44名回答

①連携、コミュニケーション

- ・自治会、子ども会、シニアクラブ等民生委員とのコミュニケーションを定期的に行う。
- ・常に連携を密にしていける体制作りが必要。
- ・民生委員が日頃から地域の人達と十分なコミュニケーションをとることで良いと思う。(2名)
- ・自治会や地域の団体と連携して、様々な地域課題の解決に協力すること。
- ・関係機関と連携して、支援や見守りを行うことが大切。
- ・地域民生委員との関わりをもつこと。

②参加、交流

- ・サロンのなもの。
- ・遠い親戚より近い知り合いを大切にして、近所づき合いを普段より良くして、家族の事情をよく知って仲良く楽しい暮らしを心掛けていきたい。
- ・地域の活動にできるだけ多くの方が関わることができたら、情報共有ができると思う。
- ・ミニデイ、自治会参加等に力を入れていく。(3名)
- ・お互いの気持ちを分かり合えるところを持つ。
- ・現在活動中の社協との週一のミニ活動にもっと多くの方を誘い、一緒に楽しく輪を広げたい。
- ・自治会・デイサービスの存在は大きいと思う。声をかけあって誘える状況をつくっていきたい。
- ・なんとなくいつも顔あわせしている仲間で、行事に参加できないとなると、ギクシャクしてしまう。若い世代と交代し「ものが言えない人」がいる様子。せめて非自治会の老人も老人会行事に出られるようにしてほしい。自治会単位の問題としないで、行政として一考してほしい。独居老人の生存確認の一助につながるのでは。
- ・週1回の生きがい健康づくり(ミニデイ)の活動が一番望ましい。
- ・地域(自治会)の人々が集会所等で交流会をもつ。(2名)
- ・地域での催しや会合においてお互い誘い合う。
- ・ミニデイ等自治会活動を通じてお互い協力し助け合うことが出来る。

③声かけ、あいさつ

- ・お互いの隣近所での声のかけ合いをすることがなにより大事だと思う。(2名)
- ・見廻り等、隣近所のつき合いが大切だと思う。
- ・日頃隣近所への声かけ、それも最近薄れていている感じがする。
- ・親戚、隣近所、ミニデイ等で絶えず見廻りに行くように。
- ・近所の付き合いをもっと密に心掛けること。

⑤自治会などの活動の充実・強化

- ・福祉推進委員会の充実を図り、自治会の中心的な活動にしてほしい。
- ・地域の交流会、イベント、区民が元気になる様な雰囲気づくりが必要だと思う。
- ・みんなが集まれる催しをたくさんやってほしい。(無料)
- ・地域の活性化を盛り上げる為、努力が足りないと思う。
- ・公民館の活用を地域で話し合っしてほしい。
- ・自治会活動の推進。

- ・自治会活動を上手に利用できる雰囲気づくり。
- ・老人会は地域の支え合い、助け合い活動の重要なひとつと考えている。
- ・当自治会では「老人会行事も自治会会員であること！が条件」である。
- ・グループ活動。

⑥個人情報

- ・個人情報を盾にして、調べられない、知らせられないでは本当に困った方に手は届かない。個人情報をよく精査してみしてほしい。認知症の方々は今後増えると言われているが、失踪して1年以上見つからない人が全国で1万人以上もいるといわれており、これも個人情報でしぼられているようだ。暴力におびえる子どもやきびしい経済であえぐ人々に社会の目が届かない。本当に困っている人は日々の暮しさえ厳しくて、助けを求める声さえも出せないのではと考えている。どこにどのような手を出せばいいのか、これは私達全員が心を配り、考え、行動すべきだと思う。一人暮らしの高齢者、老老介護の家族、ひとり親の子育て、ひきこもり、ニート、病気で動けない人などをどのように発見し、見守ることができるのか。社会全体の理解と協力が第二の課題。

⑦収入を増やす

- ・まず個人個人の収入を増やし、社会・政治全体で考え、すすめる。気持ちの上でゆとりを生むために。
- ・税金が上がリ、生活が苦しくなり、生活困窮におちいりそう。支え合う前に年金生活をもっと良くしてほしい。そもそも税金が高いのが生活困窮になる原因だと思う。

⑧人員

- ・民生委員の増員をすること。
- ・ボランティア出来る人がもっと必要で、家から公民館に来るまでの車等もほしい。
- ・自治会等の民主的な運営を計る。地域コミュニティがガラッと変わる。担い手を若がえらせる努力をする。

⑨意識改革

- ・住居周辺との情報交換をして関心を持つようにつとめるよう、相互扶助の意識をもつことが望ましい。
- ・難しいことだと思うが、一人ひとりのボランティアの心が必要だと思う。

⑩その他

- ・住民の高齢化に伴い、公的な福祉サービスで給付要件に該当しない、いわゆる「制度の谷間にある人々」への対応。例としてゴミ出し、電球の交換といった軽易な作業について家族や友人など身近な人々の手助けが期待できない人々等は、地域で生活している人には見えない地域の生活課題であり、身近でなければ発見が難しい。これらに対応する考え方として地域福祉をよりきめ細かく福祉施策に位置づけると同時に、誰もがいつかは遭遇する課題であり、これらは自らの問題であると認識し、私達地域住民がそれを共有して解決に向かうような仕組みを作っていく必要がある。このような仕組みをつくっていくことは住民の自己実現意欲をいかすことにもなると思う。
- ・福祉制度など福祉の専門機関の関係者を呼んで学習会等を開いて学習を深める。
- ・介護福祉をもっと受けられるように。
- ・サークル活動においての交通の便を充実してもらいたい。
- ・民生委員の役割を知りたい。民生委員の活動をもっと充実させてほしい。
- ・福祉制度、サービス等に関する情報を住民にわかりやすく提供すること。